

取扱説明書

連動制御盤（蓄積式）

露出壁掛型 SASJ001B-R-1L

- ・この取扱説明書はいつでも使用される所に保管してください。
- ・この商品は定期的な保守点検を必ず行ってください。

注意



安全に正しくご使用頂くために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
また、本文中に出てくる注意事項を注意深く読み、よく理解してご使用ください。

NOHMI

目次

はじめに	1	5. 異常のときには	13
ご使用前に	1	5-1. 異常時の表示	13
安全にご使用していただくために	1	5-2. 異常警報一覧	15
安全上のご注意	2	【点検・施工される方へ】	
1. ご使用にあたって	3	6. 電源投入時	16
1-1. 各接続機器の概要	3	7. 保守・点検の準備	16
1-2. 各部の名称	3	7-1. 警報音停止設定	
【取扱いされる方へ】		（保守音警停止設定）	16
2. ご使用方法	5	7-2. 起動・連動・移報遮断設定	17
2-1. 平常時の表示	5	7-3. 蓄積解除設定	17
2-2. 火災発生時の表示	6	8. ディップスイッチの設定	18
2-3. 防排煙機器の起動	7	9. 予備電源試験	19
2-4. 火災鎮火後の取扱い	8	10. 回路図	20
3. 警報音の停止方法	9	11. 仕様	21
3-1. 警報音の停止方法	9	12. 「寿命部品」の定期交換について	22
3-2. 警報音の種類	10		
4. その他の機能について	11		
4-1. 蓄積機能	11		
4-2. 誤操作防止機能	12		

NOHMI 能美防災株式会社

本社／〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL. (03)3265-0211

支社	北海道 (011)746-6911	東北 (022)221-2695	新潟 (025)243-8121	丸の内 (03)3213-1781
	茨城 (029)225-2600	千葉 (043)266-0303	北関東 (048)669-2255	西関東 (042)643-1520
	横浜 (045)682-4700	静岡 (054)247-3211	中部 (052)915-2411	長野 (026)227-5521
	金沢 (076)252-6211	関西 (06)6330-8661	京都 (075)694-1192	中国 (082)510-1125
	岡山 (086)244-4222	九州 (092)712-1560		
営業所	旭川 (0166)35-7824	青森 (017)729-0532	盛岡 (019)645-0552	秋田 (018)862-5086
	郡山 (024)947-1194	福島 (024)528-4195	羽田 (03)5757-9393	渋谷 (03)3461-1051
	杉並 (03)3306-0451	城東 (03)3626-2461	五反田 (03)3779-9737	土浦 (029)822-3851
	宇都宮 (028)637-4317	群馬 (027)328-1567	埼玉西 (049)247-4640	川崎 (044)233-5773
	沼津 (055)923-9669	浜松 (053)473-3422	三重 (059)226-9860	富山 (076)444-1450
	福井 (0776)21-0056	神戸 (078)334-3581	四国 (087)868-6811	北九州 (093)583-3344
	長崎 (095)845-0135	熊本 (096)360-1051	大分 (097)543-2778	宮崎 (0985)28-8792
	鹿児島 (099)253-8196	沖縄 (098)862-4297		

URL <http://www.nohmi.co.jp/>

お問い合わせは・・・

はじめに

このたびは、当社の連動制御盤をご採用いただき、まことにありがとうございます。
万一の時に正しくお取扱いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、この説明書は大切に保管してください。

ご使用の前に

安全にご使用いただくために

- ★ご使用前にこの「安全にご使用いただくために」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ★ここに示した注意事項は、製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
- ★危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをした場合に生じる内容を、「危険」、「警告」、「注意」の3つに区分しています。

「危険」：取扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷や傷害を負うかまたは防災機能に致命的な悪影響を及ぼす事が想定される場合。

「警告」：取扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うかまたは防災機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが想定される場合。

「注意」：取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うかまたは防災機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合、及び、防災機能を長期にわたって有効に活用する上で、ぜひ守ってほしい事項。

・絵表示の見方



記号は危険・警告・注意を促す内容がある事を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

絵表示の例



一般的な
注意事項



感電注意



一般的な
禁止事項



接触禁止



一般的な
指示事項



アース指示

安全上のご注意

連動制御盤を安全にお使いいただくために、以下の点にご注意ください。

警 告



通常時は警報音を停止しないでください。
火災時に警報音が出ないため避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。



機器の異常時には、速やかに保守点検契約先に連絡してください。
異常を放置すると正常に機能しません。



修理技術者以外は本体内部に手をふれないでください。
感電・故障の恐れがあります。



防火戸、防火シャッター、防煙たれ壁などの近くに物を置かないでください。
火災時に所定の機能を発揮できず、被害が拡大する恐れがあります。

注 意



機器の操作は必ず手で行ってください。
手以外の物では確実な操作ができず、また機器を破損することがあります。



火災の鎮火前に機器の復旧を行わないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたす恐れがあります。



本装置の周りに物を置かないでください。
緊急時の操作に支障をきたします。



スイッチ注意灯が消灯していることを常日頃確認してください。点滅している場合は、いずれかのスイッチが ON しており、正常に動作しません。



各機器の正しい取扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。
緊急時の対応が容易となります。



感知器の下で多量の煙、蒸気又は高熱を発する物を使用しないでください。
非火災報【※1】の原因となります。
また、感知器に物をぶつかけたり、取り外したりしないでください。失報【※2】の原因となります。
【※1】非火災報…調理、たばこなどによる煙や熱により、火災でない場合でも煙濃度や温度が感知器の感知レベルに達した場合に作動することをいいます。
【※2】失報…感知器の設置箇所の不適切、故障等により火災を有効に感知しないことをいいます。



非火災報が出た場合はその原因を確認してください。原因が不明の場合は、保守点検契約先に点検を依頼してください。非火災報が出た場合に、電源を切ったり、警報音を停止状態にしたままにすると、火災時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。



本防災システムは施工店などと保守点検契約を結び、定期点検を行ってください。この定期点検を怠ると火災時に正常に機能しない恐れがあります。

1. ご使用にあたって

本製品は、火災時に各感知器より信号を受けた時、または起動スイッチが押された時に防排烟装置（自動閉鎖装置等）を起動する連動制御盤です。

本製品に接続された各機器（煙感知器など）の概要をあらかじめ確認しておいてください。

1-1. 各接続機器の概要

本装置に接続できる機器は、煙感知器、防排烟機器（自動閉鎖装置等）などです。

連動制御盤



煙感知器 火災時に発生する煙を感知し、連動制御盤に信号を送ります。

防排烟機器（自動閉鎖装置等）

関連機器、外部接続機器

電源 AC100V 50/60Hz

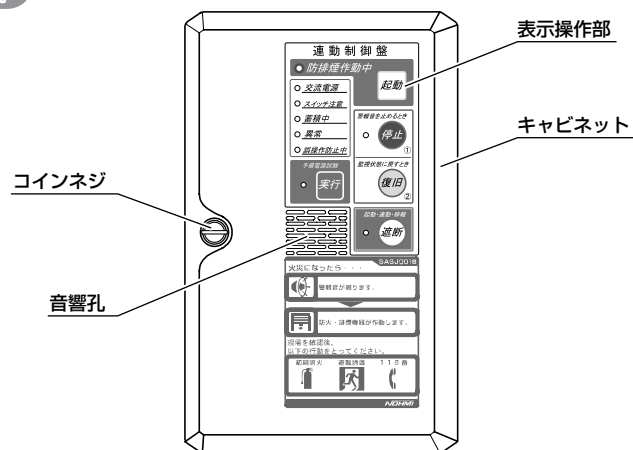
注意



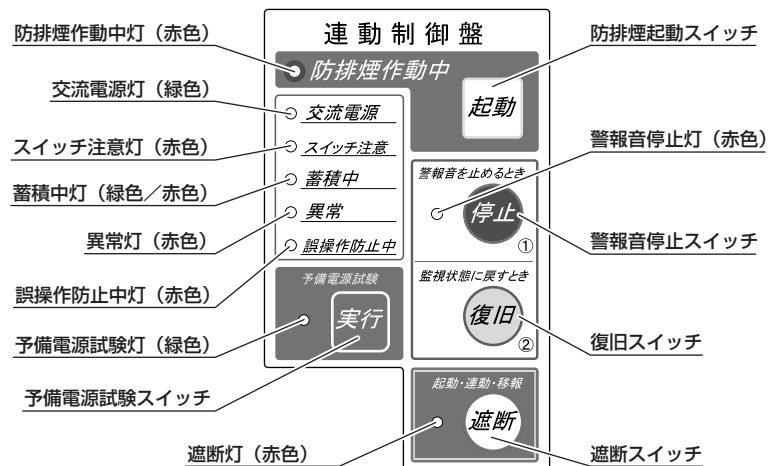
各機器の正しい取扱いを理解し、緊急時の使用に備えてください。
緊急時の対応が容易となります。

1-2. 各部の名称

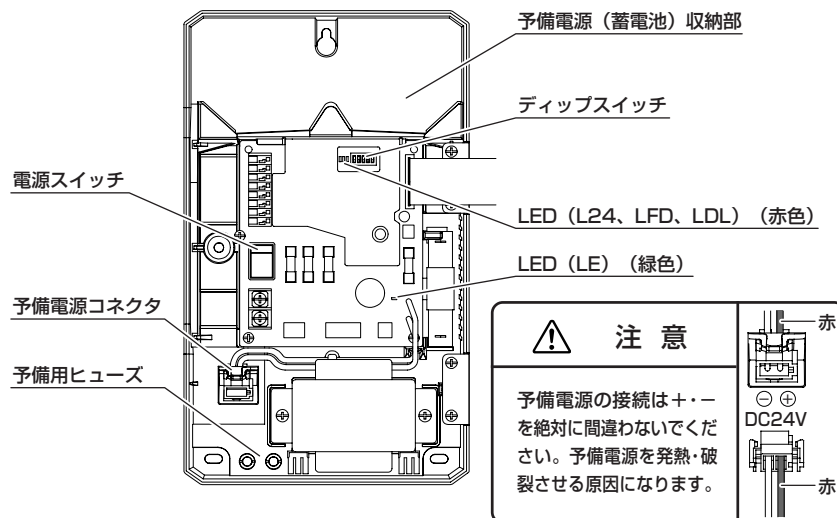
外 観



表示操作部の詳細



内 部

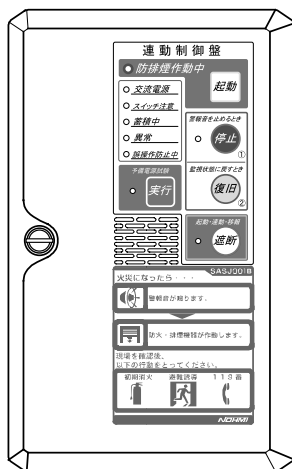


2. ご使用方法

2-1. 平常時の表示

警告 	連動制御盤が正常な監視状態にあるか、常日頃確認してください。 正常な監視状態にない場合は火災時に正しく動作しません。
警告 	予備電源は必ず取り付けてください。 予備電源がないと停電時に機能しません。

★日常は次の状態を確認してください。



正常な監視状態 表示

- **交流電源**
- **スイッチ注意**
- **蓄積中**
- **異常**
- **誤操作防止中**

交流電源 灯と、盤内LED (LE) が点灯しています。

注: その他の表示灯は、全て消灯しています。

停電時には 表示

- ★ **交流電源**
- **スイッチ注意**
- **蓄積中**
- **異常**
- **誤操作防止中**

停電時は、電源が自動的に予備電源に切り換わり、**交流電源** 灯が点滅し、30秒に1回の割合で「ピッ」と音響が鳴動します。

予備電源はニッケルカドミウム蓄電池で、1時間監視後、30分間作動できる容量をもっています。

○ : 「消灯」を示す。
● : 「点灯」を示す。
★ : 「点滅」を示す。

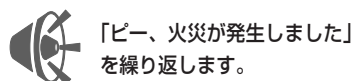
2-2. 火災発生時の表示

火災発生時には警報音が鳴り、次のように動作します。

表示



防排煙作動中 灯が点滅します。



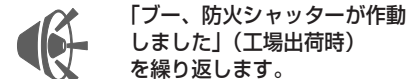
接続されている防排煙機器（自動閉鎖装置等）が起動します。

防排煙機器（自動閉鎖装置等）の起動後、以下のように表示します。

表示



防排煙作動中 灯が点灯します。



※防排煙機器作動時の音声は変更ができます。
(8. ディップスイッチの設定 → P.18 参照)

現場の確認及び119番通報

火災発生現場に急行して、安全を確かめたうえで、火災発生現場の確認、初期消火、避難誘導、消防署への通報を速やかに行ってください。

2-3. 防排煙機器の起動

防排煙機器（自動閉鎖装置等）の起動方法は、火災起動と手動起動の2種類があります。

火災起動

火災発生時には、接続されている防排煙機器（自動閉鎖装置）を起動します。

（2-2. 火災発生時の表示 → P.6 参照）

手動起動

防排煙機器（自動閉鎖装置等）を手動で起動する場合は以下のようにします。

操作

● 防排煙作動中

起動

防排煙起動 スイッチを押します。

表示

● 防排煙作動中

起動

防排煙作動中 灯が点滅します。



「ビー、ビー」を繰り返します。

防排煙機器（自動閉鎖装置等）の起動後、以下のように表示します。

表示

● 防排煙作動中

起動

防排煙作動中 灯が点灯します。



「ブー、防火シャッターが作動しました」（工場出荷時）を繰り返します。

※防排煙機器作動時の音声は変更ができます。
（8. ディップスイッチの設定 → P.18 参照）

2-4. 火災鎮火後の取扱い

禁止



火災の鎮火前に機器の復旧操作を行わないでください。火災状況の把握が困難になります。また、あわてて復旧操作をすると表示状況の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたす恐れがあります。

火災後の処置が済み、鎮火を確認した後は以下の操作を行い、正常な監視状態に復旧させてください。

操作



復旧 スイッチを押す。



★防排煙機器の作動時は、再度警報を発します。

表示

● 防排煙作動中

起動

防排煙作動中 灯が点灯します。



「ブー、防火シャッターが作動しました」（工場出荷時）を繰り返します。

防排煙機器の復旧

作動している防排煙機器（自動閉鎖装置等）を復旧します。

※復旧方法は防排煙機器によって異なりますので、防排煙機器の取扱説明書を参照してください。

表示

● 防排煙作動中

起動

防排煙作動中 灯が消灯し、警報音が停止します。

★復旧後は 2-1. 平常時の表示 → P.5 の確認をしてください。

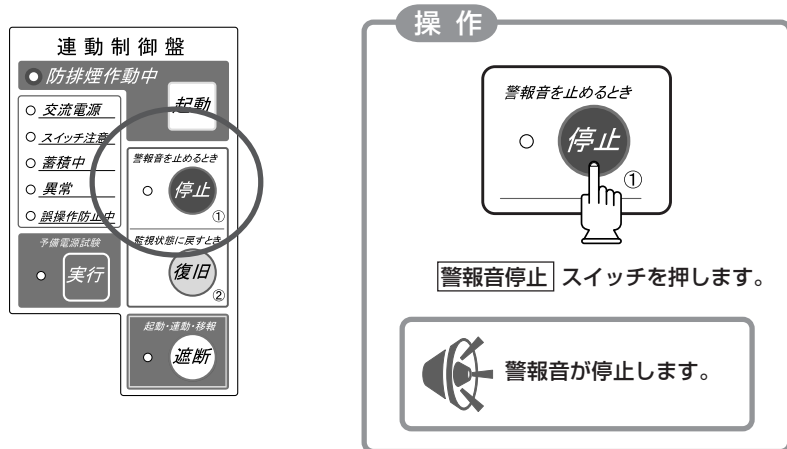
3. 警報音の停止方法

3-1. 警報音の停止方法

禁止

保守、点検以外で警報音を停止しないでください。
火災時に警報音が鳴らないため、避難・消火活動が大幅に遅れる危険があります。

鳴動している警報音を停止するには、以下の操作を行ってください。



【警報音の停止】

- ・**警報音停止** スイッチを押すと警報音が停止します。
- ・一度警報音を停止させても、火災や異常など他の鳴動要因が発生した場合、再度警報します。
再度、**警報音停止** スイッチを押すと停止します。
- ・継続して警報音を停止したい場合、機器内部にあるディップスイッチの3番をONにしてください。
保守音響停止設定になります。
(7-1. 警報音停止設定(保守音響停止設定) → P.16 参照)

3-2. 警報音の種類

火災や異常などを知らせる警報音は、状態をわかりやすくするために電子音と音声を組み合わせただものになっています。警報音が鳴動した場合は、連動制御盤がどのような状態にあるかを確認してください。

2種類以上の警報要因が発生した場合、優先度の高いものが鳴動します。

音 響	状 態	優先度
「ブー (連続音)」	制御回路が異常です (5-1. 異常時の表示 → P.14 参照)	高
「ブー、防火シャッターが作動しました」 (工場出荷時)	防排煙機器が作動しています (2-2. 火災発生時の表示 → P.6 参照) (2-3. 防排煙機器の起動 → P.7 参照)	
「ブー、防火戸が作動しました」		
「ブー、防火設備が作動しました」		
「ピー、ピー」	防排煙起動スイッチが押されました (2-3. 防排煙機器の起動 → P.7 参照)	中
「ピー、火災が発生しました」	感知器が作動しました (2-2. 火災発生時の表示 → P.6 参照)	
「ピッ」	蓄積が入りました (4-1. 蓄積機能 → P.11 参照)	
「ブー、ブー、異常が発生しました」	異常が発生しています (5-1. 異常時の表示 → P.13 参照)	
「ピッ、ピッ」	誤操作防止機能が設定／解除されました (4-2. 誤操作防止機能 → P.12 参照)	
「ピッ」	予備電源動作中です (2-1. 平常時の表示 → P.5 参照)	低

★「音声フリーズなし」に設定されている場合は、表中のアンダーライン部が省略されます。

4. その他の機能について

4-1. 蓄積機能

調理や排気、たばこなど一過性の熱や煙によって感知器が作動してしまうことによる〈非火災報〉を防ぎ、火災警報の信頼性を高めるために感知器からの火災信号を受けてから一定時間内に再び火災信号を受信したときに火災警報を行う〈蓄積機能〉が備えられています。

火災信号受信時、次のように動作します。

火災信号 第1報目 表示

蓄積中 灯が緑色に点灯します。



一度だけ「ピッ」と鳴動します。

緑

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

約7秒後 表示

感知器が自動的に復旧され、**蓄積中** 灯が赤色に切り替わります。

このとき第2報目の火災信号に備え、待機している状態となります。

赤

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

50秒以内に第2報を受信しない場合

表示

蓄積中 灯が消灯します。

2-1. 平常時の表示

→ P.5 参照

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

50秒以内に第2報を受信した場合

火災信号 第2報目

火災と判断して火災表示をします。

2-2. 火災時の表示 → P.6 参照

4-2. 誤操作防止機能

スイッチの入力操作を無効にする誤操作防止機能を設けています。

機能設定時には、**警報音停止** スイッチ以外のスイッチ操作を無効にします。

また、**誤操作防止中** 灯の点灯と **スイッチ注意** 灯の点滅で設定中であることを表示します。

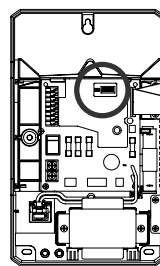
★ディップスイッチの操作は、電源が入った状態でも実行できます。

★火災、蓄積動作時は、自動的に解除されます。

★火災、蓄積中のときには設定ができません。

設定方法

操作



ディップスイッチ2番をONにします。

盤内

表示

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

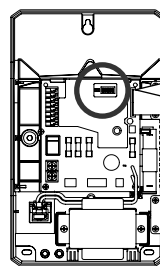
誤操作防止中 灯が点灯、**スイッチ注意** 灯が点滅します。



設定時のみ、「ピッピッ」と鳴動します。

解除方法

操作



ディップスイッチ2番をOFFにします。

盤内

表示

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

誤操作防止中 灯と、**スイッチ注意** 灯が消灯します。



解除時のみ、「ピッピッ」と鳴動します。

5. 異常のときには

5-1. 異常時の表示

感知器断線や電源、ヒューズなどの状態を常時監視し、それらの異常を自動的に検出して警報する機能を備えています。

★異常時には、早急に保守点検契約先に修理を依頼してください。

警告 機器の異常時には速やかに保守点検契約先に連絡してください。異常を放置すると正常に機能しません。

警告 修理技術者以外の人とは分解したり、修理・改造はしないでください。故障の原因になります。

感知器配線の断線

常時、感知器配線の導通（断線または終端抵抗の未接続など）を監視しています。

★断線を検出した場合、盤面の「異常」灯が点滅し、盤内のLED（LDL）が点灯、警報音が鳴動します。

回路電圧の異常

主回路電源として使用している24V電源回路の電圧を監視しています。

★電圧異常を検出した場合、盤面の「異常」灯が点滅し、盤内LED（L24）が点灯、警報音が鳴動します。

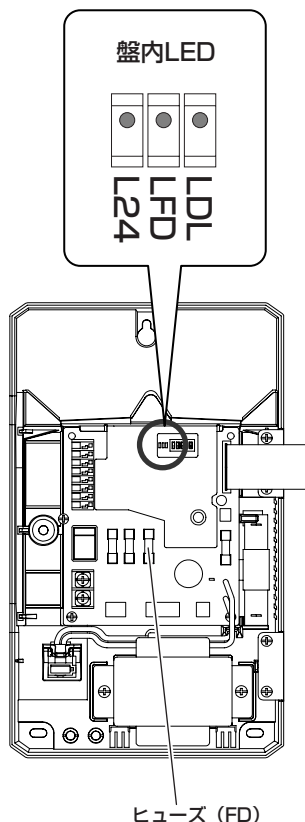
ヒューズの断線

連動制御盤内のヒューズ（FD）の断線を監視しています。

★ヒューズの断線を検出した場合、盤面の「異常」灯が点滅し、盤内のLED（LFD）が点灯、警報音が鳴動します。

警告 ヒューズは必ず決められた容量のものを使用してください。それ以外のものを使用した場合、故障・発火の原因となります。

注意 ヒューズの交換は予備電源をはずし、電源スイッチをOFFにした状態で行ってください。感電や短絡事故の恐れがあります。

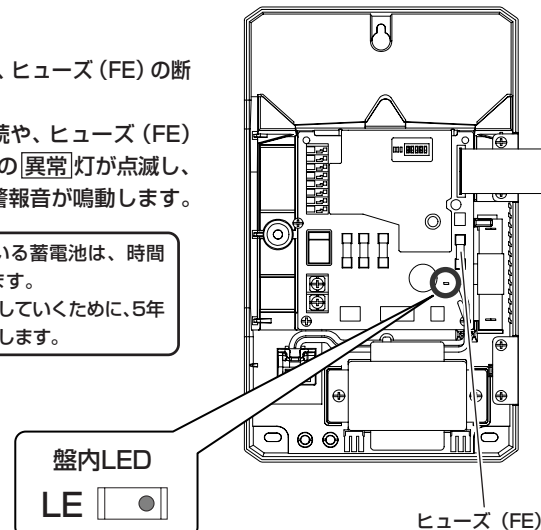


予備電源の異常

予備電源コネクタの未接続や、ヒューズ（FE）の断線を監視しています。

★予備電源コネクタの未接続や、ヒューズ（FE）の断線を検出した場合、盤面の「異常」灯が点滅し、盤内のLED（LE）が点灯、警報音が鳴動します。

警告 本製品に内蔵されている蓄電池は、時間経過とともに劣化します。適正な状態に維持管理していくために、5年ごとの定期交換を推奨します。



表示

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

異常を検出した際には、「異常」灯が点滅し、警報音が鳴動します。



「ブー、ブー、異常が発生しました」を繰り返します。

制御回路の異常

連動制御盤の制御回路を監視しています。

盤面の「異常」灯が点灯し、警報音が鳴動します。

表示

- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

異常を検出した際には、「異常」灯が点灯し、警報音が鳴動します。



「ブー」（連続音）が鳴動します。

5-2. 異常警報一覧

No.	警 報 項 目	内 容	異 常 警 報	
			警 報 音 響	盤 面 盤 内
1	感知器配線の断線	DLC、DL端子から終端抵抗までの配線の断線監視	ブー、ブー、 異常が発生しました	異常 灯点滅 LDL 点灯
2	回路電圧の異常	DC24V電源回路出力電圧を監視	ブー、ブー、 異常が発生しました	異常 灯点滅 L24 点灯
3	予備電源の異常	予備電源接続コネクタ脱落監視 予備電源用ヒューズ (FE) 断線監視 電池電圧低下の監視	ブー、ブー、 異常が発生しました	異常 灯点滅 LE 消灯
4	ヒューズの断線	防排煙用ヒューズ (FD) の断線監視	ブー、ブー、 異常が発生しました	異常 灯点滅 LFD 点灯
5	制御回路の異常	制御回路を監視	ブー (連続音)	異常 灯点灯 —

[点検・施工される方へ]

6. 電源投入時

電源投入時には次のように表示されますので、**遮断**スイッチを押して平常状態にしてください。

(2-1. 平常時の表示 → P.5 参照)

表示



- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

交流電源 灯、**遮断** 灯が点灯し、
スイッチ注意 灯が点滅します。

★電源投入時は起動、運動、移報が
遮断状態で立ち上がります。

7. 保守・点検の準備

本製品には、保守・点検時に使用する保守機能を設けています。

保守・点検時の試験は感知器の加煙試験を必要とする場合もあり、原則として点検契約先から派遣される点検資格者が行うことになっています。

警告



運動している設備の内容を十分確認して操作してください。
不用意の操作は機器類に損害を与え、人に対して危害を及ぼす恐れがあります。

注意



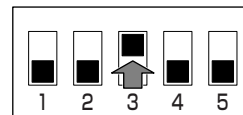
試験後、正常な監視状態にあることを確認してください。
正常監視状態でない場合、火災時に正常に動作せず被害を防止できなくなります。

7-1. 警報音停止設定 (保守音響停止設定)

保守・点検中、警報音を止めておきたい場合は、以下の操作を行ってください。

★ディップスイッチの操作は、電源が入った状態でも実行できます。

操作 表示



- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

警報音を止めるとき



- ① 盤内ディップスイッチの3番をONにします。
- ② **スイッチ注意** 灯と **警報音停止** 灯が点滅します。

・解除する場合は上記スイッチを OFF にしてください。

(**スイッチ注意** 灯と **警報音停止** 灯が消灯します。)

7-2. 起動・連動・移報遮断設定

保守・点検中、防排煙機器（自動閉鎖装置）や外部接続機器に火災信号の移報を行わない場合は、以下の操作を行ってください。

操作 表示



- 交流電源
- **スイッチ注意**
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

- ① **遮断** スイッチを押します。
- ② **遮断** 灯が点灯し、**スイッチ注意** 灯が点滅します。

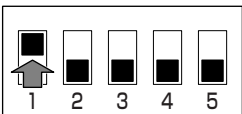
- ・移報を行う場合は、再度 **遮断** スイッチを押してください。
（**遮断** 灯、**スイッチ注意** 灯が消灯します。）

7-3. 蓄積解除設定

保守・点検中、蓄積動作を行わない場合は、以下の操作をしてください。

★ディップスイッチの操作は、電源が入った状態でも実行できます。

操作 表示



- 交流電源
- **スイッチ注意**
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

- ① 盤内ディップスイッチ 1 番を ON にします。
- ② **スイッチ注意** 灯が点滅します。

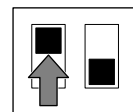
- ・蓄積解除設定を解除する場合は、上記スイッチを OFF にしてください。
（**スイッチ注意** 灯が消灯します。）

8. ディップスイッチの設定

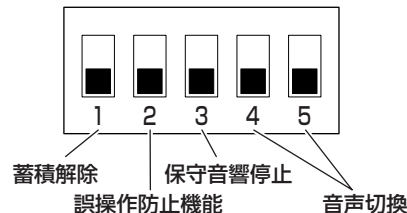
本装置では盤内のディップスイッチにより、蓄積解除、誤操作防止、保守音響停止、音声切換の設定ができます。

★ディップスイッチの操作は、電源が入った状態でも実行できます。

操作



各機能の設定をするには、ディップスイッチの各スイッチを押し上げます。



蓄積解除	火災回線の蓄積を解除する機能です。 （ 7-3. 蓄積解除設定 → P.17 参照）
誤操作防止機能	盤面スイッチの操作を無効にする機能です。 （ 4-2. 誤操作防止機能 → P.12 参照）
保守音響停止	警報音の鳴動を常時停止する機能です。 （ 7-1. 警報音停止設定（保守音響停止設定） → P.16 参照）
音声切換	防排煙機器作動時の音声を切り換える機能です。 （下記 音声切換の設定 参照）

音声切換の設定

防排煙機器の作動を音声にて警報します。

ディップスイッチの4番と5番のON、OFFの組み合わせで下表のように切り換えられます。使用する防排煙機器に合わせて設定してください。

接続機器例	音声フレーズ	4 番	5 番
① 防火シャッター	「防火シャッターが作動しました」 （工場出荷時）	OFF	OFF
② 防火戸	「防火戸が作動しました」	OFF	ON
③ ①と②以外の設備	「防火設備が作動しました」	ON	OFF
④ 全ての音声を省略する場合	音声フレーズなし	ON	ON

9. 予備電源試験

本製品に予備電源として内蔵されている蓄電池に停電時の定格負荷を与え、予備電源の電圧異常を調べるものです。

★試験中は「交流電源」灯が点灯したままです。また、停電時や予備電源未接続時は予備電源試験ができません。

予備電源試験方法

操作



予備電源試験スイッチを20秒押し続けます。

正常判定

表示



予備電源試験スイッチを押している間、予備電源試験灯が点灯します。

異常判定

表示



- 交流電源
- スイッチ注意
- 蓄積中
- 異常
- 誤操作防止中

予備電源試験を強制終了し、「予備電源試験」灯が消灯、「異常」灯が点滅します。

★「予備電源試験」スイッチの押下をやめると、正常監視状態に戻ります。



「ブー、ブー、異常が発生しました」を繰り返します。

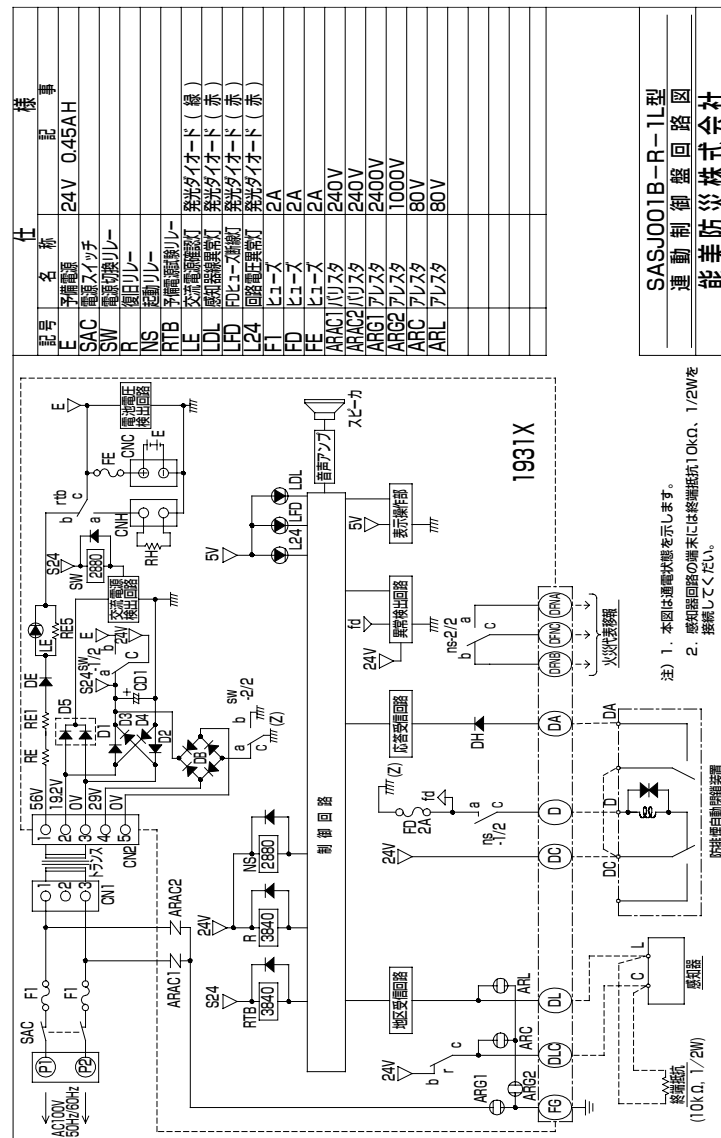
- ・予備電源試験は、「予備電源試験」スイッチを押下している間のみ試験を実行します。20秒押し続けて、異常判定にならないことを確認してください。
- ・「予備電源試験」スイッチの押下を中止した場合、試験を終了します。
- ・予備電源試験中に蓄積、火災、停電が発生した場合は試験を強制終了します。また、前述の要因が継続される場合は、再度「予備電源試験」スイッチを押下しても試験を実行しません。

警告



本製品に内蔵されている蓄電池は、時間経過とともに劣化します。適正な状態に維持管理していくために、5年ごとの定期交換を推奨します。

10. 回路図



11. 仕様

自主評定マーク使用許可番号		A-15-2	
種 別	連動制御盤 蓄積式	型 名	SASJ001B-R-1L
回 線 数	1	構 成	露出壁掛型
予 備 電 源	密閉型ニッケル・カドミウム電池 0.45 A h		
回 路 電 圧	【感知器】		DC24V
	【マイコン、I C、表示回路】		DC5V
	【蓄電池充電回路】		DC48V
消 費 電 力	最大負荷時 約 45VA		
接 続 機 器	感 知 器	非蓄積型煙感知器 30 個（蓄積型感知器は接続できません。）	
	自動閉鎖装置	消費電流合計 1A 以内（DC24V）	
音 響 装 置	音声警報		
異常警報機能	自動断線警報機能 ： 受信機-感知器間の断線異常警報機能 各故障警報機能 ： 予備電源異常、回路電圧異常、ヒューズ断線、 制御回路異常		
無 電 圧 移 報	DC30V 1A		
終 端 抵 抗	10k Ω、1/2W 以上		
使用温度範囲	0℃～40℃		
外部配線抵抗	感知器配線		往復 50 Ω 以下
	自動閉鎖装置配線		往復 3 Ω 以下
主 材	難燃性樹脂		
色 調	ライトグレー（マンセル 5Y8.5/1）		
仕 上 げ	ツヤ消し		
質 量	約 2.5kg		
外 形 寸 法	H×W×D= 269 × 162 × 78 mm		
付 属 品	工事用予備品、蓄電池、取扱説明書、施工説明書		

12. 「寿命部品」の定期交換について

ここでは、寿命部品の定期交換について説明しています。

「寿命部品」定期交換のお願い

本システムを適正に維持するためには、法で定める定期点検とともに、寿命部品の定期交換が必要です。

本システムに使用している電気部品は、設置後の時間経過とともに劣化・磨耗していきます。システムを更新まで適正に維持管理するためには、故障が発生した時点ではなく、予防保全の観点から定期的に寿命部品の交換（有償）をしていただきますようお願い申し上げます。

注意	定期交換推奨年数はこの間の電気部品および本システムの機能・性能を保証するものではありません。
注意	定期交換推奨年数は取扱説明書どおりに使用し、良好な環境で使用した場合の推奨値です。
注意	寿命部品以外の電気部品についても、経過年数変化により劣化・故障は発生します。
注意	寿命部品の交換を行う場合は、仕様や取り付け方法、設定方法に指定があります。当社 CS 部門または代理店・特約店にご用命ください。
注意	寿命部品のモデルチェンジや生産中止によっては、代替品を用いることがあります。代替品の互換性によっては、対応するための加工などが必要になることがあります。
注意	設置後年数が経つと、部品の生産中止が多くなり、寿命部品を含めた電気・電子部品の供給ができなくなることがあります。この場合には、システムの更新（リニューアル）が必要となります。

「寿命部品」および定期交換推奨年数

寿命部品および定期交換推奨年数を以下に示します。

部 品 名	定 期 交 換 推 奨 年 数
蓄 電 池（ 予 備 電 源 ）	5 年